

遠い風の旋律

杣雅司展

masashi SOMA



星の詩 2003

2024.7.27_[土] — 9.1_[日] 東御市梅野記念絵画館

開館時間／9:30 - 17:00 (最終入場 16:30)

休館日／月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)

入場料／一般 300 円 (団体 250 円) ※団体割引は 15 名様以上から ※障がい者割引、学校利用減免、減額制度あり

遠い風の旋律 杣雅司展

masashi SOMA

杣雅司は1946年愛媛県宇和島市に生まれ、武蔵野美術短期大学を中退後も、絵画表現の追求を続ける画家です。2003年に所属する美術団体から離れ、2008年に八ヶ岳南麓北杜市に移住し、自然の厳しさと優しさの内に暮らしながら、深く静謐な何かを求め日々創作しています。

杣雅司は、しばしば古楽器を演奏する人物を描きますが、そうした作品群は13～15世紀のゴシック様式を連想させます。しかしながら、画家の目線は現代の社会を見据えており、作品の根源には社会情勢が深く関わっています。重厚に描かれた杣の作品は、現代に生きる人々の精神を揺さぶるような強いエネルギーが込められています。

本展では、画家の代表作から新作までを一堂に展示いたします。混沌とした時代に訴えかけるような杣雅司の絵画をぜひご鑑賞ください。



鳥の歌 2009年

杣雅司の造形思考 杣雅司展に寄せて

ものごとを見つめるように仕向ける視覚芸術の役割は見る人に、より多くの現実（リアリティ）をとらえるように働きかける事で同じ空間で絵画と共有する体験をとまなう。

観る人は絵画鑑賞から出発し、より内面を耕し、深い思考に到る。こつこつと絵画のことに命を与える同時代を生きる優れた画家とともにいることの充実感をあらためて感じる。

あらゆる芸術作品には時代とは一見関係ないように見えても、息づく胎動（鼓動）を伝えるものであり、杣作品には時代の閉塞性が反映されている。困難を極めていく状況のなかで、一条の光を求める絵画といえよう。

毛利輝太郎（美術評論家）
「杣雅司の造形思考」より抜粋



男の肖像 2003年



朝の祈り 2003年



風のアポカリプス 2011年



安らぎ 2007年

杣雅司 masashi SOMA



1946年 愛媛県宇和島市に生まれる。
1968年 武蔵野美術短期大学中退。
2000年 大調和展入選。
2003年 美術団体脱会、現在無所属。
2008年 アトリエを山梨県北杜市に移す。

現在も各地の美術館や画廊にて定期的に個展を行う。

東御市梅野記念絵画館・ふれあい館

〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1 TEL: 0268-61-6161 FAX: 0268-61-6162

◎鉄道等の場合

しなの鉄道 田中駅からタクシーで約15分

◎お車の場合

上信越道 東部湯の丸ICから約20分

www.umenokinen.com

